

■大上市市 兵庫県産薬草・貝の研究を先駆した博物学者。生涯生地にあって、郷土史や動植物を中心に、多く著作を遺した。

おおうえいち

薩摩藩士密航1865＝

播磨国揖東郡篠首村(兵庫県たつの市新宮町)で、生まれる。

篠首村は、龍野藩脇坂家の領地の山間の農村で、水を得にくく、江戸時代には、年貢を米でなく大豆で納めており、池をつくるも大雨の度に決壊して被害にあえぐようなところであった。

明治維新・・・1868＝3歳：

早くに母と別れ、継母につくという不幸のなかに育ち、

明治6年政変 1873＝8歳：

佐賀の乱・・・1874＝9歳：揖東郡篠頭_小学校に入学したが、

_貧困のため、

西南戦争・・・1877＝12歳：父親が「退校の儀願」を提出して、_中退させられ、

大久保暗殺・1878＝13歳：家業の手伝いをするようになったという。

_生来好奇心が強く学を好み、以後、近在・近郷に書籍を持っている人々を訪ねては借りて読破するなど、ほとんど独学で語学力や広い知識を獲得して行くとともに、病弱であったため、薬草を煎じて服用して、薬草採取に歩き回り、薬草や漢方に関する書物に親しんだことが、植物研究につながって行く。

明治14年政変1881＝16歳：

岩倉具視没・1883＝18歳：

内閣発足・・・1885＝20歳：

徴兵検査を受けたが、軍需品輸送程度のレベルとされ、結局入営しなかった。***本格的に薬草の研究に着手し、最初の著書「妙薬秘箋」を書き始めている。**

帝国憲法発布1889＝24歳：

伊勢参宮の帰途、姫路の_本屋で、李時珍著「本草綱目」を見つけると、有り金をはたいて全52巻を購入。

帝国議会始・・・1890＝25歳：

初めて雑誌に掲載された投稿は、東洋社発行の{東洋奇術新報}に寄せた記事で、読者からの質問に答える形のものであった。農業こそが国家の基礎であり、農村の改良・農業者の教育が重要であるとも考えて、

足尾鉉毒始・1891＝26歳：

おりからの早魃で、播州一円が干上がって、飢饉の惨状を目の当たりにしたことから、

大本教・・・1892＝27歳：

この年、横井時敬を主幹に、{博文館}が農業の専門雑誌{日本農業新誌}を発刊すると、飢饉対策の農業について様々な視点からの研究を、次々と120件も投稿、学者らを強く批判もしているが、一般読者にもわかりやすい誌面構成が目指され、情報や研究成果を発表するだけでなく、全国の読者からの質問に丁寧に答えたり、有益な種苗を交換したり、中央の学者や他の読者と論戦を重ねたりといった活動も行い、後に総代となって農村経営の実務に携わるにあたって、大いに役立ったと考えられる。

日清戦争始・1894＝29歳：

海辺に近いところの植物352種を収め、克明な図譜をつけた「そふれぐさ」を編述。以後、動植物を中心とする自然研究に向かい、所々の山野に動植物を採集し、これを図説記録すると共に、全国各地の同好者とさかんに標本の交換を行い、又諸種の書籍を借覧書写抄録し、自ら図を画くなどするが、著作は、ほとんどが公刊されず、研究の発表はもっぱら専門雑誌への投稿によって行われ、「植物分布学」「参考菌類〜キノコの部」「内外花譜」「菌類研究」「菌類雑記」等、次々発表するうち、学界にも名が知られてくるようになり、

子規句歌革新1898＝33歳：

この年から記録を始めた蔵書目録によれば、雑誌319冊と書籍228冊の合計547冊であった。この年には、*東京帝国大学植物学教室矢部吉禎からの依頼で送った標本の中から、同講師の牧野富太郎によって、日本国内では兵庫県南西部から岡山県南東部にかけての限定された地域にのみ見られるコヤスノキが発見され、牧野が学名を定めたタキミシダもあった。これを契機に、学歴無く冷遇されていた牧野と文通が始まる。

ピノコ産化・1900＝35歳：

貝の新品種オオウエゴマガイを発見。

田中正造直訴1901＝36歳：

自身の編著書執筆と並行して、雑誌上に「古書買求の便利」のためにと、自身が持つ古書の情報を開示し、他の読者に情報を提供するよう求めている。現存する宇市への来簡を見るだけでも、その差出人の住所は東北地方から四国・九州に至る広い範囲で、人的ネットワーク構築の重要な部分を占めていたと考えられる。

日露戦争終・1905＝40歳：

この頃には、_「文明国としての国威ある日本」の姿を念頭に、博物学研究を進めていくことが必要であり、その上で諸学問を利用していくことが重要であり、基礎的な研究が国力の源泉になると考えるに至る。

_貝類の研究のため、近所の子供たちから貝を買い上げ、厳しい家計がますます苦しくなるなか、

アヲネ創刊・1908＝43歳：

産米制度が始まるとともに、地主と小作人の対立が深まって行く。

韓国併合・・・1910＝45歳：

明治天皇没・1912＝47歳：

_この頃まで精力的に専門雑誌への投稿を続け、

第一次大戦始1914＝49歳：

_長年の研究活動が認められ、揖保部長から表彰を受けた。地域の人々からも見直されるようになり、

ロシア革命・1917＝52歳：

この年には、総蔵書数1,930冊となっている。読書は単に書籍を購入して読むだけでなく、読書始める前に、目的の書籍を持つ人物を探し、交渉し、借覧・抄録・書写するという段階を必要とすることも多く、経済的・地理的に不利な状況にある在村研究者の特微的な読書環境であると考えられ、

ベル仁条約・1919＝54歳：

*篠首村の総代に選出された。以後、持ち前の知識を活かして、篠首村の発展に貢献。この間も気象観測は欠かさず、郷土史研究も継続して行い、

原敬首相暗殺1921＝56歳：

_牧野富太郎が来村し、蔵書で、身動きもできないあばら屋で夜を徹して語り合った。この頃は、もっぱら菌類の研究に没頭していて、知己を得た仙台の第二高等学校教授で蘚苔学の権威安田篤のアドバイスを得、和歌山の南方熊楠とも文通しながら、

水平社結成・1922＝57歳：

岡山県に住む採集家から雑誌の抄録送付の依頼があるように、人的ネットワークが図書館のような役割。

護憲三派圧勝1924＝59歳：

安田の急逝に落胆するも、_「二千菌譜」全九巻を完成。播州が再び大早魃にみまわれると、克明に記録。

共産党事件・1928＝63歳：

*体調を崩し始め、健康上の理由で辞任。床につくことが多くなって、研究を続けることも困難になってくるなか、著作刊行に動いてくれる人もあったようであるが、結局、金が足りずに反故になり、

満州事変・・・1931＝66歳：

二二六事件・1936＝71歳：

淡路で開かれた兵庫県博物学会総会での表彰には、次男を代理出席させている。

日中戦争始・1937＝72歳：

第二次大戦始1939＝74歳：

_紙を買う金も底をついたのか、孫の答案用紙に小さな文字で書き込み、あほう坊主・大上市市乱筆と添え書きした「でたらめ雑記」が最後の著作になり、

大政翼賛会・1940＝75歳：

_48年間毎日続けていた気象観測も途絶えて、

日米開戦・・・1941＝76歳：

_没した。

オオウエゴマガイは、当初「オオカミゴマガイ」と命名されたが、1943年に播磨を訪れた貝類学者黒田徳米が、「大上」の読みが誤っていることを知り、それを遺徳として訂正された。

石川雄輝「大上市の研究活動における書籍入手」、池内紀「二列目の人生〜隠れた異才たち〜」、